



フクジュソウ（福寿草）

冷気のなか、福寿草は朝日が昇るような黄金色の花を地上すれすれに咲かせます。

もともとは、旧暦の正月頃に咲きだすため、元日草と呼ばれていましたが、後に幸せと長寿を祝う花という意味の福寿草という名がつけられました。また、中国では古来から黄色は縁起の良い色とされ、日本もそれにあやかってつけたと言われています。

江戸末期には大変流行し、その当時から多くの品種が作られてきましたが、新年を祝う花、春を呼ぶ花として、今も人々から賞美されています。

「あしたより日かけさしいる枕への

福寿草の花皆開きけり」

小泉千鶴